



# 園長だより

第2号



新渡戸文化子ども園  
平成25年5月22日

## 「見守る」と「教える」

先日、公園で遊んでいる子ども達のお母様方と一緒にいる機会がありました。子ども同士でおもちゃの事でケンカとなり、一人のお母様が「\*\*ちゃん。これ貸してあげてくれる？」と、自分の子どもが泣いているので心配になり自分の子供におもちゃを譲ってくれるように相手のお子様と言葉をかけていました。そうですね。泣いていれば心配ですよね。気持ちは良くわかりました。相手の子もすぐに貸してあげていました。

もし同じ状況で同じようなケンカが起きた時、この泣いていた子はどうするでしょうか？きっとお母さんの顔を見るでしょう。そして、助けを求めましょう。更に、集団生活の幼稚園や保育園、子ども園など通っている集団生活の場で、先生に助けを求めながら友達と関わっていくのでしょうか。

幼児教育の最大の目的は「子どもとしての自立」です。卒園するころには、友達と遊んでいる時に自分の気持ちを伝え、相手の言い分も聞き、悪い時にはあやまり、逆に許し、時には譲ったりする優しさも見せる。その経験を見逃さず「見守り」、正しかったら褒め、そして困っていたら「教える」。それが、先生の役目になってきます。

さて、ご家庭で夕飯の食卓や一緒にお風呂に入った時等、我が子がお友達とけんかをした話や困った話をして来た時、「大丈夫かしら？」と、心配になった事はありませんか？特にお腹を痛めた母親であれば、胸が張り裂けそうになるほど心配になることってありますね。私にもありました。

もしかしたらその瞬間が「子どもが自立をしようとしている。」時なのではないか？

と、今になって思い返しています。子どもは最初から幼児ではなく乳児でしたね。おっぱいを飲んでおむつをして。親はどうでしょう？最初から「お父さん」「お母さん」はいませんね。熱を出す度に心配をし、初めての集団生活に送り出す度に緊張をし、お友達とケンカをしたと聞いては心配をする。それらをひとつひとつ乗り越え親になっていくのではないのでしょうか。

まず「見守る」そして、自分で解決するためにはどうすれば良いか、その言葉や方法を具体的に「教える」。子ども達のより良い成長のために、大人がしてあげる事のできるとても大切な事の一つですね。

### つぶやき (3歳児と5歳児)

A君(3歳)「明日の遠足に、僕は  
チョコ持っていくんだ。」  
B君(5歳)「え？もしかしてその  
チョコ食べると、くすぐったくなるの  
かな？」  
先生達 (満面の笑顔)

### 長時間保育時の安全管理について

早朝と夕方の長時間保育時、今年度より主任か園長のどちらかが、職員室に待機しています。出張等でどちらも待機できない時もありますが、これに伴い玄関の朝の挨拶も主任と園長が交代となりますので、よろしくお願いたします。また、保健室には保健の先生が朝8時より、夕7時まで常駐しております。

## 子育て相談 ～子ども園相談室より～

「毎日の子育て、楽しんでいらっしゃいますか？」と、4月にお手紙を出したところ2件のご相談がありました。

お二人ともお母様でしたが、ご相談いただいた内容にお話をさせていただいたところ、すっきりとしたご様子で、翌日の「おはようございます。」の笑顔がとても爽やかに思えました。

なにかご家庭でお困りのことや、そこまでは困っていないけれどいつも疑問に思っていることがある等々、お声をおかけ下さい。「子ども園」はもちろん子どもたちのものですが、同時にお母様のための「子育て支援」の発信基地としても役目を果たしていかなければならない世の中になっていると思います。

お母様はもちろん、お父様も子育てしながら疑問に思っていることなど、いつでもご相談ください。